

# オーガニックビレッジ宣言から広がる 地域活性の可能性について

- 1) 高鍋・木城有機農業推進協議会
- 2) 木城町（有機農業推進室）
- 3) 木城オーガニックタウン推進協議会



# 高鍋・木城有機農業推進協議会

## 連携の目的

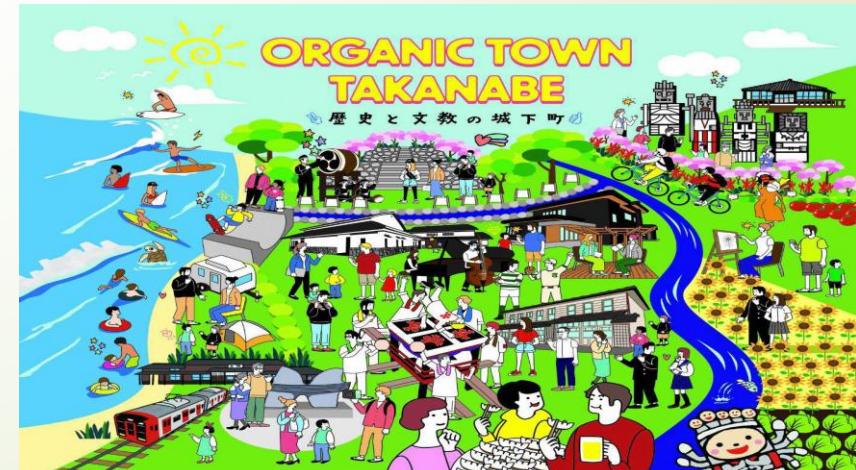
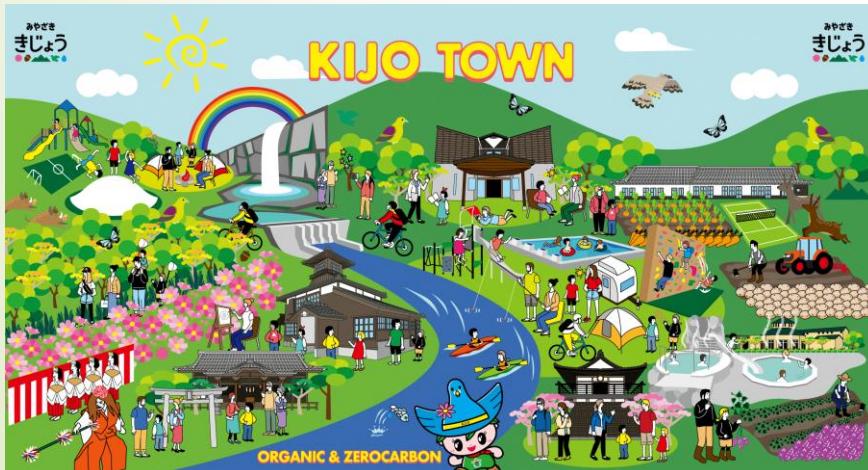
豊かな照葉樹林を有する山々に囲まれた木城町

豊かな海に面した高鍋町

両町をつなぐ小丸川をベースとした「森・里・川・海」のつながりによる  
地域循環システムの構築により

自然循環に配慮した持続可能な農業の展開と  
安心・安全な農産物の生産・消費拡大を進め

両町の農業者が、それぞれで環境保全型農業の取組を前進させることを目的として設立！



# 高鍋・木城有機農業推進協議会（実績）

## 平成30年 9月 高鍋・木城有機農業推進協議会設立

令和 3年 5月 みどりの食料システム戦略が策定（農林水産省）

11月 一般社団法人フードトラストプロジェクトと  
包括的連携協定を締結

令和 4年 5月 特定非営利活動法人みやざき有機農業協会設立  
12月 有機JAS認証団体として認可・登録

令和 5年 2月 高鍋・木城オーガニック憲章ワークショップ

3月 高鍋・木城有機農業実施計画策定

6月 全国オーガニック給食協議会加盟

高鍋・木城オーガニックビレッジ宣言

→ 全国初となる2町連携でのオーガニックビレッジ宣言

2月 高鍋・木城オーガニック憲章発表会

みどりの食料システム戦略推進交付金（令和4. 5. 6年度）活用！！



## 高鍋・木城オーガニック憲章

一つ 私たちは、自然環境でつながる地域同士で協力し合いながら、未来に続く農と食の世界を築きます。

一つ 私たちは、地域にやさしい農産物の生産を通じて、子どもたちをはじめ人々の心身の健康に寄与します。

一つ 私たちは、地産地消を基軸に地域の自助自立の力を高めます。

一つ 私たちは、これからの中を支える持続可能な生産・流通・消費を一体として学ぶ環境を充実させます。

一つ 私たちは、生み出されたオーガニックな食の提供を通じて、地域経済の発展を実現します。



# 高鍋・木城有機農業推進協議会（支援）

## 【事業（協議会規約第3条）】

1. 高鍋町、木城町の有機農業の実態把握と情報伝達体制の構築
2. 有機農業実践者及び有機栽培転換志向者等に対する研修会等の開催
3. 有機JAS認証団体の設立準備並びに認証取得の支援
4. GAP認証取得の支援
5. 有機農産物の認知度向上・流通促進に向けた取組み
6. その他前条の目的達成に必要な事項

## 高鍋・木城有機農業支援事業補助金

補助対象経費	対象となるもの	補助率	補助上限
1 講習受講料	有機JAS認証の申請に必要な講習会の受講に係る経費（旅費は除く）	県内機関：10/10	なし
		県外機関：5/10	
2 有機JAS認証取得料	有機JAS認証の初回の取得に係る経費	県内機関：10/10	10万円
		県外機関：5/10	5万円
3 有機JAS認証更新料	有機JAS認証継続に係る経費	県内機関：10/10	5万円
		県外機関：5/10	3万円

# 高鍋・木城有機農業推進協議会（計画・実績）

## ① 教育連携の強化（県立農業大学校・高鍋農業高校）

これから就農する方（学生）が、有機農業を1つの選択肢として検討してもらうことを目的とした連携。

### 【宮崎県立農業大学校】

- ① 令和6年度から実施している有機農業概論（年15コマ）の授業計画書（シラバス）作成等に協力  
内容：講師紹介（有機農業実践者・有機JAS認証団体・有機農産物取扱店）や講義に対する協力を実施
- ② 有機農業とは（徳江倫明）・地域における有機農業の取組（両町担当者）として、有機農業概論の講師協力
- ③ 両町の啓発イベントに対する学生ボランティア協力（パネラー・スタッフ等）
- ④ 情報の共有による相互協力の実施

### 【県立高鍋農業高校】

有機農業（概論）を高校の授業に組み込むための協議を継続中

- ・令和6年度において、全生徒を対象とした講演会を実施（副会長：高鍋町長対応）
- ・令和7年度以降も年1回以上の開催に向けて協議を継続

# 高鍋・木城有機農業推進協議会（計画）

## ② 独自認証制度の確立

### 【目的】

- ① 有機JAS認証取得を目的として生産された農畜産物に対する付加価値（転換期間中）
- ② JAS認証に拘らない生産者の掘り起こし
- ③ 認証制度を活用した農畜産物による直売所・給食食材の充実・活性化の推進
- ④ 木城町・高鍋町産農畜産物に対する信頼の向上（地域ブランド力の向上）

### 【認証内容】

農産物：科学的に合成された農薬・肥料を使用しないことを前提とした認証（3段階予定）

畜産物：地域資源や未利用資源等の飼料使用率（活用率）を基準とした認証（3段階予定）

加工品：添加物や保存料の使用率に対する認証（3段階予定）

有機栽培や自然栽培の素材使用率に対する認証（3段階予定）

### 【スケジュール】

農産物：令和7年度中に制度を設計し令和8年度から運用開始予定

畜産物：令和8年度において畜産関係者を含めた制度内容の検討（令和9年度以降での施行予定）

加工品：令和8年度において制度設計（令和9年度以降での施行予定）

# 高鍋・木城有機農業推進協議会（次年度以降計画）

## ① 有機農業サポートセンターの設置

- 有機 J A S 認証に対するサポート  
→ 高鍋町では申請サポートを実施
- 新規就農希望者に対するサポート
- その他、有機農業の普及に関わるサポート

## ② オーガニックスクール開校の準備

- 講師選定、カリキュラムの作成
- 協力農家の募集、調整
- 活用圃場の選定、調整  
→ 試験的に開催「KIJ〇オーガニックアカデミー」

## ③ 啓発イベントの開催

- 地域内生産者（木城町・高鍋町）の魅力発信
- 県外を含む生産者間情報交流場所の提供
- 県内消費者に対する情報交流（収集）場所の提供
- 地域ブランド力の向上

## ④ 独自認証制度に対する継続協議

- 認証農産物に対する広報活動
- 認証農産物に対する販路開拓
- 加工品、畜産品認証に対する検討

## ⑤ 高鍋・木城有機農業実施計画の検証

- 一般社団法人フードトラストプロジェクトとの継続協議  
→ 令和6年度より一般社団法人theOrganicに変更

## ⑥ 各種事業・実証の継続

- 実証圃場活用の継続（土壌改良実証等の実施）
- 未利用資源や堆肥等の有効活用についての検討  
(みやざき G R I P 事業活用予定)

# 特定非営利活動法人 みやざき有機農業協会 (有機 JAS 認証機関)

令和4年12月に有機 JAS 認証機関としての認可を受け、有機農業技術の普及と有機 JAS 認証事業者の増加を目指し事業を継続しています。

## 【認証実績（～令和7年9月）】

有機農産物の生産行程管理者：8件（40.67ha）

⇒ 域内認証面積 高鍋町：3件（17.6ha）  
木城町：1件（4.5ha）

有機加工食品生産行程管理者：3件

⇒ 域内認証件数 高鍋町：1件

有機加工食品小分け事業者：2件



### 当協会の認証機関名表示

- 1) みやざき有機農業協会
- 2) みやざき有機
- 3) みや有協
- 4) MOAA

# 木城町（有機農業推進室）

## 【有機農業推進室（令和6年4月～）】

室長（産業振興課長兼務）、推進係長、地域おこし協力隊（2名）

### ○ 推進内容・業務内容

1. 学校給食の有機化（公約：未来を託す子供たちが輝く町～学校給食にオーガニック～）
2. 市民農園の開園
3. 町内直売所「菜っ葉屋」の活性化
4. 栽培技術の確立
5. 消費者や事業者を含めたオーガニックを中心とした町づくりの検討

# 木城町（有機農業推進室）

## 【学校給食の有機化】

木城町有機食材等給食支援事業補助金（令和5年度～）

補助内容：町内産農産物を事業者が給食の食材として購入する経費を補助

→ 有機 J A S 認証農産物・特別栽培農産物・畜産物

（独自認証農産物も令和8年度より補助対象として取扱う予定）

→ 町内産農産物を原料とした加工食品や調味料も補助対象となるよう調整中

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人参	599.1kg	776.8kg	487.6kg	335.2kg	515.5kg
じゃがいも	782.8kg	824.5kg	691.8kg	456.4kg	451.1kg
さつまいも	348.0kg	131.2kg	156.0kg	280.6kg	301.9kg
特別栽培米	0.0kg	0.0kg	0.0kg	389.5kg	375kg
町内畜産物	288.4kg	119.2kg	279.5kg	137.1kg	94.26kg

# 木城町（有機農業推進室）

## 【市民農園の開園】

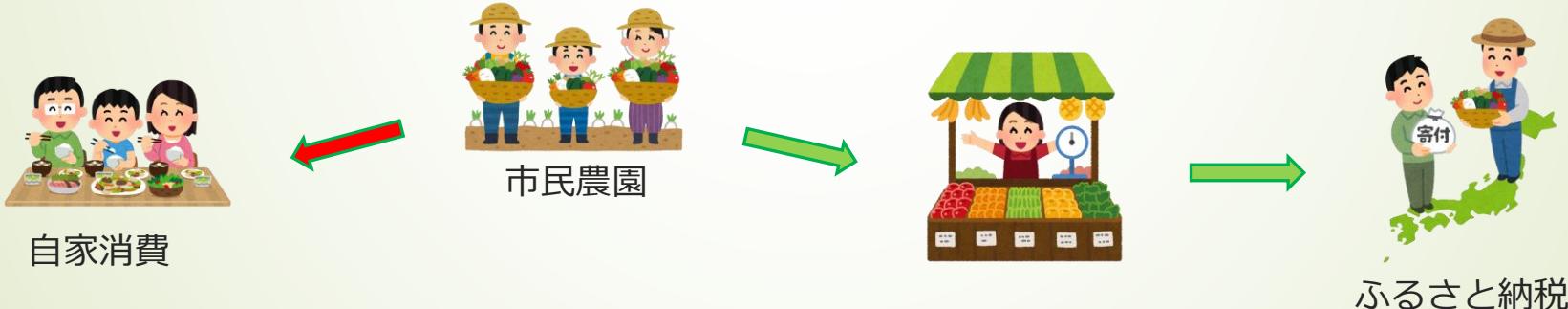
### 【木城町の市民農園とは】

様々な住民が、レクレーションや生きがいづくり、生徒・児童の体験学習などの多様な目的で小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園

### 【市民農園収穫物】

- ① 基本的に自家消費に対する収穫
- ② 自家消費を超える分については販売可能（市民農園法）

«余剰農産物の活用イメージ»



### 【市民農園が活用できる対象となる方】

- ・有機農に興味があり実践する意欲のある方（町外者含む）
- ・現時点において慣行農業をされている方（有機農実践者含む）

# 木城町（有機農業推進室）

## 【町内直売所「菜っ葉屋」とふるさと納税の活性化】

### ◆ 特設コーナーの設置（木城町ふるさと振興協会との協議）

オーガニック農産物（独自認証制度を活用した農産物を含む）を活用した特設コーナーの設置や販売時のディスプレイ（生産者紹介等を含）に対する協議

### ◆ 町内農畜産物の掘り起こしによる出品数の増加

→ 既に農薬・化学肥料を使わない栽培や使用量・使用回数を低減している生産者の掘り起こし（高鍋・木城有機農業推進協議会で取り組む「独自認証制度」を活用）  
→ 独自認証制度を活用した付加価値販売と販売価格に対する制限対策（値崩れ防止対策）の検討

### ◆ 市民農園余剰野菜・家庭菜園野菜の販売

→ 家庭菜園から出荷されている農産物を認証に繋げる事への検討  
→ 市民農園収穫野菜の余剰分を独自認証野菜として販売

# 木城町（有機農業推進室）

## 【栽培技術の確立】

### ○ 木城町産ちほのまい日本酒「城」の原料米有機化（作付面積：約 7 a）

→ 麻原酒造株式会社（友情都市：埼玉県毛呂山町）にて醸造

→ 紙マルチ田植え機による実証栽培（除草剤不使用栽培の実証）



### ○ 自然栽培米甘酒の生産（原料：木城町産ちほのまい）

→ 令和6年産より販売（令和7年2月より販売開始）

→ 令和7年産より「有機JAS認証農産物：生姜」

「中之又産柚子」を活用した新商品の販売に向けて調整中



### ○ しづかなかみ茶原料用麦の安定生産

2023年でのサステナブルセレクション受賞商品

→ 児湯農業改良普及センターの協力を含めて栽培技術を確立させる

→ 木城町内の教育保育施設で提供される麦茶を全て有機化し

た上で、販売に繋げていくことが最終目標。



# 木城町（有機農業推進室）

## 【栽培技術の確立】

### ○ 南九ブラックボール（NBB）有機栽培事業

- 黒川カボチャを品種改良（南九州大学）
- 収穫した農産物を活用した商品開発

#### 商品開発（みやざきローカルフードプロジェクト強化事業活用）

教育連携事業として「みどりの杜木城学園」の生徒を絡めた商品開発に対する『材料の選定、味の調整、試食、パッケージデザイン等』に加えて、販売戦略として開発した商品のマーケティングを実施 → 協力事業者による完全バックアップ体制を構築



### ○ 大豆（みやだいす）有機栽培実証

- 都城市の在来種みやだいす（ケンコー食品工業株式会社）
- 令和7年度で「味噌づくり体験教室」を複数回開催予定  
第1回目：6月29日（町内外より36名が参加）

#### « 目的 »

- ① 自身が食べるものに対する『こだわり』意識の醸成
- ② 原料（大豆）の購入に繋がる企画を開催することで生産者に対する支援も目的としています。



# 木城町（有機農業推進室）

## 【栽培技術の確立】

### ○ 茎根腐細菌病（甘藷：高鍋・木城有機農業推進協議会事業）

有機JAS認証農産物の産地崩壊を防ぐため土壤改良資材等の効果について検証

→ 土壤検査は宮崎県児湯農林振興局（児湯農業改良普及センター）が対応

→ 販路が確保されている農産物を守ることで、未来の新規就農者に対する支援を兼ねての実証



# 木城町（有機農業推進室）

## 【KIJOオーガニックアカデミー】

○ 講師：元宮崎大学農学部 教授 大野 和朗

→ 綾町の有機農業研修会でも講師を担当

開催時期：令和7年10月～令和8年2月（毎月第2日曜日）

開催時期：午後2時～午後4時（2時間）

開催場所：木城町役場 別館2階会議室

### 【天敵利用講座】

① なぜ、農業で病害虫が問題となるのか（10月19日）

② 農薬や周辺植生が害虫防除に及ぼす影響（11月9日）

③ 畑の中の植生が、土着天敵の動きを高める（12月14日）

④ 代表的な天敵の種類と動きを強化する方法（1月14日）

⑤ 持続可能な農業から再生可能な農業へ（2月8日）



### 【受講料】

町内在住者：1,000円

→ 個別参加希望時は各回300円

町外在住者：2,000円

→ 個別参加希望時は各回500円

**令和9年度からの開校に向けて講師の選定等を段階的に進める予定**

**（令和8年度で講師を3人体制まで増やすことを目標）**

# 木城町（木城オーガニックタウン推進協議会）

## 【木城オーガニックタウン推進協議会：令和6年4月26日設立】

### ① 目的

農業者及び事業者並びに消費者となる地域住民が一体となって、持続可能な農業から生産された農畜産物の消費までを一貫して検討・実施できる地域の確立を目的として設立。

### ② 会員数：14名

消費者：5名、農業者：7名、事業者：2社

### ③ 会費

消費者：1,000円、農業者：2,000円、事業者：3,000円

### ③ 活動内容

1) 技術の普及・生産性の向上、2) 流通・消費、3) 意識の醸成

4) 学校給食の安定供給体制の確立

### «会員特典»

- ・協議会で木城町の進む方向（考える政策）について検討するため、町の考えに会員として個人の意見を絡める事が可能となる。

- ・イベントや研修、補助事業等を軸に、有意義な情報の入手が容易になる

# 木城町（木城オーガニックタウン推進協議会）

## オーガニックフェスタ in Kijo

令和6年9月22日（日） 9：30～15：00  
木城町総合交流センターリバリス

### ○ アリス・ウォータース来日ドキュメンタリー映画

入場料金：300円（中学生以下無料）

入場者数：113名（当初目標80名）

→ 内34名がグループワークに参加

### ○ 映画鑑賞者を対象としたグループワーク

入場料金：無料（映画入場料金を含めて無料）

→ 映画の感想やオーガニックタウン木城に今後望むこと等について意見交換を実施（6班）

協議会会員を各班のファシリテーターとして活用

### ○ オーガニック&こだわりマルシェ in Kijo

出店者数：17件（かごしま有機生産組合も出店）

→ 午前中で、ほとんどの商品が完売

### ○ 有機&スマート農業に対する取組紹介

協力企業：株式会社南九州沖縄クボタ（無人田植え機の実演・小型トラクター展示）

株式会社ヰセキ九州（水田用アイガモロボ&小型トラクター展示）

ヤンマーアグリジャパン株式会社（小型GPSトラクター展示）



# 木城町（木城オーガニックタウン推進協議会）

## FAN SUMER'S MEETING

令和7年3月1日（土） 10:00～19:30

木城町城山公園

生産者（FARMER）と消費者（Consumer）がお互いに  
尊敬しあえる（FANになる）関係性の構築を目的として開催

### ○ 第1部：オーガニック＆こだわりマルシェ

出店者数：21件 → 午前中で、ほとんどの商品が完売



### ○ 第2部：FAN SUMER'S DINNER MEETING（会費：3,500円、参加者：71名 関係者含）

木城町内の有機・自然栽培・特別栽培生産者の農産品と、その生産者にフォーカスした  
イベントとすることで、木城町産農産物の魅力を伝える

提供内容：木城町産有機農産物と木城町産放牧豚を活用したオーガニック  
ワンプレートディナー

特典内容：木城町産

企画内容：地域と一緒に動く～ブランド化と地域活性～  
ルーツミュージック演奏会  
有機農業のみらいを語るトークセッション



**FAN SUMER'S MEETING 2025秋（11月16日開催）**

**FAN SUMER'S MEETING 2026春（令和8年2月開催）**

# 木城町（木城オーガニックタウン推進協議会）

## オーガニックタウン推進大会

令和7年12月7日（日）  
木城町総合交流センターリバリス

### ○ 第1部：基調講演（有機農業と町づくりについて調整中）

オーガニックプロデューサー派遣事業活用予定（農水省）  
一般社団法人 次代の食と農を作る会  
代表理事 千葉 康伸（株式会社 農楽 代表取締役）

### ○ 第2部：FANSUMER'S ミニマルシェ

県内から約10店舗程度の参加を募り『オーガニック＆こだわりマルシェ』を同会場にて開催

### ○ 第3部：ワークショップ

基調講演参加者を対象として、木城町を舞台としたオーガニックタウンの可能性について  
グループワーク形式で検討する場や、味噌づくり等の体験型ワークショップを複合的に開催

### ○ 第4部：交流会

Neoベジタリアン（プラントベース（植物性）&ホールフーズ（丸ごと戴く全体食）を基本とした食事の様式であり、動物性食品（肉・魚・卵・乳製品・蜂蜜）の摂取を肯定している。）を提唱するフードコーディネーターの「erikoさん」を調理人としてお招きし、関係者による交流会を開始際する。

## 木城町（有機農業推進室）

【木城町が目指す方向】

有機農を柱とした  
個性集まる町づくり

（オーガニックタウンKIJOを目指して！）